

菊池川水運と共に栄えた港町

玉名市大浜地区
〔町並みの分類／商人町〕

廻船問屋街の賑わいが偲ばれる町並み

町並みについて

- ◆ 菊池川下流域に形成された砂州上に位置する玉名市大浜地区は、藩蔵があった高瀬港の機能が土砂の堆積により低下したことにより、江戸中期以降、肥後米の積出港として繁栄しました。
- ◆ 同地区には、大坂屋・長崎屋などの廻船問屋を中心として三十数隻の船運が営まれ、数多くの集散荷問屋が集積していました。また、340余戸の住民の殆どが船運にかかわり、特色ある港町の景観を形成していました。
- ◆ 大火に数回見舞われたことから設けられた「火除け地」と呼ばれる延焼を防ぐための空き地が、現在も通り沿いに残っており、“浜千軒”とも呼ばれた廻船問屋街として大いに賑わった面影を今に伝えています。



町並みの中心(核)となる伝統的建造物


現存する旧廻船問屋

- ◆ 3軒の旧廻船問屋(久吉丸、神亀丸、市原屋)が現存しており、久吉丸はその中で最も旧観をよく残している建物です。また、神亀丸は火除け地に隣接して建っている堅牢な土蔵造りの建物で、入念な火災対策が特徴的です。
- ◆ 菊池川の渡し場に近い場所にある市原屋は、廻船問屋の構えをよく留めており、「しとみ戸」などに往時の面影が偲べれます。

ひさよしまる
久吉丸

同地区は、堂島米会所で筑前米などと並び“四蔵米”の一つに数えられた肥後米をはじめ、麦、菜種など納屋物と呼ばれる多くの物資が行き交う交易拠点として発展しました。また、オランダ船対策で槍や鉄砲が備え付けられた大浜番所が設置されるなど軍事拠点としても重視され、同地区は有明海からの玄関口として多様な役割を担っていました。